

TOKAI

東 海 防 衛 だ よ り

2019
令和元年

秋

東海防衛支局の取組等／東海3県の自衛隊の動き

- ◆ 周辺財産（移転補償跡地）の個人・民間に対する有償使用許可のご案内
- ◆ 地域の憩いとふれあいの広場 市之久田公園
- ◆ 名古屋市内の住宅地での不発弾無事処理完了
- ◆ 愛三岐の街から ～愛知県 豊山町～

東海3県の防衛産業・技術基盤

- ◆ 富士電機株式会社 鈴鹿工場

名古屋市市内での不発弾処理

防衛施設周辺財産の有償使用
周辺財産（移転補償跡地）の個人・民間に対する有償使用許可のご案内
 岐阜飛行場周辺

飛行場周辺において移転補償等により取得した防衛省所管の国有財産について、本年度より新たに個人や民間の方を対象に有償で使用許可を行うこととなりました。

各務原市に所在する航空自衛隊岐阜基地（岐阜飛行場）周辺には周辺財産と呼ばれる防衛省所管の国有財産土地が点在しています。この周辺財産は、国有財産法（昭和23年法律第78号）第18条により、国の用途や目的を妨げない限度において、国以外のものを使用を許可することができます。

これまでは対象地が所在する地方公共団体に対して無償の使用許可（貸付）を行ってきたり、公共性の高い場合においては企業に有償で使用許可をしているとありますが、今般、土地の有効活用を図る観点から一定条件の下、個人や企業の方々にも、有償による使用許可（貸付）を行うこととなりました。

対象となる土地や利用の流れ等の詳細につきましては東海防衛支局のホームページをご覧いただくか、直接、東海防衛支局施設補償管理課まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



① 使用許可が可能な土地の一例 ②



岐阜飛行場周辺の周辺財産の概略図

凡 例

防衛施設	使用許可済	使用許可
空地	植栽地	

【使用許可の前提条件】

- 居住の目的で利用できません。
- 現状回復が容易な利用に限ります。フェンス・舗装・簡易な工作物等の設置は可能です。（利用方法の一例：駐車場、資材置き場、マンスションなどのテラスルームなど）
- 利用の申し出の後、内容を審査した上、公平性・透明性を確保するため、公募を行います。
- 使用許可期間は、原則として1年以内です。1年以内であっても年度をまたぐ期間（3月31日を超えるもの）は更新となります。
- 国側において当該土地の利用需要が発生しない場合に限り、使用許可の始期から5年を限度に更新することができ、5年を超える要望がある場合には、期間満了時に再度、公募を行います。
- このほか、細かな事項についても検討が必要となりますので、対象地や利用目的ごとに個々に判断することとなります。

国有財産の管理上支障が生じるおそれがあると判断した場合等、使用許可できない場合もあります。

詳細は支局ホームページの「岐阜飛行場周辺における国有地（防衛省所管）の使用を希望される方へ」でご確認ください。

【使用許可までの流れ】

国有地利用の要望
 ↓
 内容審査
 ↓
 公募公告
 ↓
 要望書の提出
 ↓
 申請者の決定
 ↓
 国有財産使用許可申請書の提出
 ↓
 警察への照会
 ↓
 使用許可
 ↓
 使用期間終了
 ↓
 返還
 ↓
 更新（1年ごと）
 ↓
 再公募（5年ごと）

周辺財産とは

○防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律（昭和49年法律第101号）第5条2項等に基づき、飛行場周辺に於いて移転措置等により取得した防衛省所管の行政財産です。

○主として航空機の離着陸等に直接使用される防衛施設の周辺にあって、緑地帯その他緩衝地帯として整備することにより、周辺住民の生活環境の保全を図り、これらについては防衛施設の安定的運用に資することを目的としています。

問い合わせ先
 東海防衛支局 施設補償管理課 管理第1係
 電話 052-952-8224
 東海防衛支局ホームページ
<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/oshirase/O1siyoukyokagoannnai.pdf>
 〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-2-1
 名古屋合同庁舎第1号館

地域の憩いとふれあいの広場 市之久田公園

いちのくた

小牧基地周辺



防衛省では、防衛施設の設置・運用により、生活環境または開発に影響がある特定防衛施設関連市町村※が実施する公共用の施設の整備、その他の生活環境の改善や開発の円滑な実施に寄与する事業に対し、特定防衛施設周辺整備調整交付金以下「交付金」というを交付しています。

小牧市では、「人と緑がやく創造のまち」をテーマに都市計画を行っており、健康づくりの推進、緑の多い美しいまちづくりを進めています。都市計画を進める中で公園整備や緑化も行っており、その一環として市之久田公園も整備されています。

本公園周辺は自然豊かで田園と住宅地が共存する緑が多い地域となっていますが、これまで地域に公園がなく、周辺にお住まいの方々が日常的な憩いの場とし

（※）特定防衛施設関連市町村とは
東海防衛支局管轄区域においては、小牧基地の愛知県春日井市、小牧市、西春日井郡豊山町、岐阜飛行場の岐阜県各務原市が指定されています。



すべり台やブランコなどの遊具も整備

て、子ども達も安全に遊ぶことのできる場所がありました。そのため、交付金事業として約7300万円を活用し、平成31年3月に愛知県小牧市市之久田町内に市之久田公園が整備されました。当省の交付金事業が地域の方々の憩いとふれあいの場が増える一助となれば幸いです。



小牧市担当者の声

公園を整備したことにより、地域の方が日常的な憩いの場として、子供達へのびと安全に遊ぶことができる場所が新たにできました。地域の方からは「公園ができてとても嬉しい」等、お喜びの意見が多く寄せられています。

本公園ではバスケットボールや壁打ちウォールなど小規模な公園では珍しい施設も整備しており、これらの施設を通してスポーツや地域のコミュニティ活動等の活性化に期待しています。

名古屋市内の住宅街での不発弾 無事処理完了



不発弾処理中の様子



概況説明中の様子

令和元年6月6日午前11時頃、名古屋
市千種区小松町のビル建設工事現場にお
いて、直径約36cm、長さ約120cmの米
国製500ポンド（250kg）爆弾が発
見されました。直ちに、愛知県警本部は
地域管轄の第10師団（守山駐屯地）に処
理の要請を行いました。

第10師団は中部方面後方支援隊（第1
03不発弾処理隊（桂駐屯地））に通知
し、行政機関の要望により6月23日に不
発弾処理を行うこととなりました。

当日は、処理を担任する中部方面後方
支援隊（桂駐屯地）から14名、現地対策
本部に第10師団司令部（守山駐屯地）か
ら4名が出動し、午前9時半頃から正午
頃までの間、周辺住民約3400名の避
難、地下鉄の一部運休、名古屋高速の一
部通行止め、市バス等のう回運行などが
行われ、不発弾処理作業（信管除去作業）
が無事終了しました。



第103不発弾処理隊長
西山 義康 3等陸佐

第103不発弾処理隊は、中部
方面隊唯一の不発弾処理専門部隊
として活動しています。
部隊の教えとして不発弾処理五
訓というのがあり、そのひとつに
「不発弾百回やっても異なるぞ、
常に初心原点で、基本基礎忠実実
行」という言葉があります。
今回の愛知県名古屋市千種区で
の不発弾処理にあたり、処理隊員
には「普段通りに不発弾の安全化
をやれば大丈夫」という声掛けを
して任務に臨みました。自衛隊で
は不発弾処理任務において過去に
失敗した例はありませんので、そ
ういった意味でも、命の危険を伴
う作業ですが、初心を忘れること
なく基本基礎を実行する、この普
段通りのことを淡々と実行するこ
とが不発弾処理成功の近道だと考
えています。

「愛三岐の街から」



愛知県

豊山町

とよまちょう



服部 正樹 豊山町長

【小さくてキラリと輝くまち】

豊山町は愛知県の北西部に位置する人口1万5千人強、総面積6.18平方キロメートルの県内で面積が最も小さな自治体です。

豊山町から名古屋駅まで空港直行バスを使って20分程度で行ける便利さもあって、年々都市化が進む一方、農地が広がる田園風景を臨むこともできます。

「都市の利便さ」と「おだやかな環境」を兼ね備えているのも豊山町の特徴のひとつです。

また、今年現役を引退した元メ



あいち航空ミュージアム

ジャーリーガーのイチローさんは豊山町出身です。毎年開催されるイチロー杯争奪学童軟式野球大会の閉会式にはアメリカから駆け付けて、選手一人ひとりにメダルをかけ、イチローさん自身の言葉で語りかけてくれます。

町の東北部には、町域の約三分の一を占める県営名古屋空港があります。第2次世界大戦末に完成した陸軍小牧飛行場が前身で、戦後、昭和32年の開港以来、中部圏の空の玄関口として発展してきましたが、平成17年2月、中部国際



神明公園

空港の開港と同時に県営名古屋空港と名前を改め、小型機を中心とした「都市型総合空港」として再出発しました。

空港周辺には、航空宇宙産業の工場等が集積し、三菱航空機株式会社が開発を進める国産初の小型ジェット旅客機の製造もこの地域で行われる予定です。また、平成29年11月には「あいち航空ミュージアム」がオープンし、たくさんの来館者で賑わっています。

航空自衛隊小牧基地と県営名古屋空港は、滑走路を共有していることから自衛隊機と民間機の離着陸を眺めることができます。その

滑走路に隣接する神明公園には休日ともなると多くの子ども連れ家族やカメラを構える方で賑わっています。
本町では「小さくてキラリと輝くまちづくり」を基本理念とし、「小さい町」の特徴や利点を活かしながら、住民一人ひとりが輝いていられるまちづくりを進めています。

【自衛隊との関わり】

町の防災行政を審議する防災会議には自衛隊にも参画いただき、災害時の対応についてご指導いただいています。

また、毎年実施している町の総合防災訓練では、自衛隊の皆様にご協力いただき炊き出し訓練等のご協力をいただいています。



炊き出し訓練

富士電機株式会社 鈴鹿工場

エネルギー・環境事業で持続可能な社会の実現に貢献

富士電機株式会社の鈴鹿工場（三重県鈴鹿市南玉垣町）は、日本の大手電気機器メーカー、富士電機株式会社の9か所ある国内主要工場の1つであり、1968年に創業を開始しました。主要な製品は、小型・中型モーター、小型・中型高圧インバータ、小容量電源機種、鉄道車両用ドア駆動装置、発電機等を製造しています。民間会社向けの製品が主ですが、防衛省向けの製品については、発電装置や艦船向けモーターなどを納入しています。



富士電機株式会社 鈴鹿工場外観



発電装置

富士電機株式会社は、大型電気機器を主力製品とする日本の重電メーカーで、長年培ってきた技術力とノウハウをベースとしたパワーエレクトロニクス技術を基礎に、エネルギーを最も効率的に利用できる製品を提供しています。また、製品の開発・設計から製造、試験、アフターサービスまでを一貫して行い、多様化するニーズと信頼性に対応していきます。「電気を自在に操る技術」に長けて来た企業として、スマートグリッド（次世代送電網）の展開にも

積極的に動いており、各地の実証実験等にも参加しています。

発電関連設備に強く、特に地熱発電分野では、世界一の約4割のシェアを持っています。また、自動販売機の分野でも、国内1位のシェアであり、ピークシフト自動販売機（省エネ型自動販売機）、コーヒードリッパマシン、次世代自動販売機（駅などで見るディスプレイにタッチして商品を購入する自動販売機）などを世に送り出しています。

●富士電機株式会社の発電装置

突然の停電によって電気がストップしてしまえば、普段の生活はもとより防衛省・自衛隊の運用に重大な影響を与えかねません。その様な万一のリスクに備えた防災用・保安用の発電装置を豊富に取り揃えています。消防法や建築基準法に適合・対応した信頼性の高い発電装置で、高品質な電力を届けています。

●品質を支える高度な技術

発電装置の製造には、溶接・ろう付け施工が不可欠であり、接合部の品質は製品の信頼性を大きく左右します。発電装置の構成部品である発電機の回転子の組み立て及びフレーム機械加工を行っている現場の作業長は技能士電気機器組立て（回転電気組立て作業）特級を取得しています。回転機の構造や製造における技

能・知識だけでなく、作業現場の安全管理、品質管理、作業効率向上など現場をまとめる必要不可欠な技能・知識も幅広く身に付けており、一人ひとりの個性や考えを理解し、それらが発揮されるようコミュニケーションを大切にしています。

富士電機株式会社の鈴鹿工場は、環境に対応した新たな技術とこれまでに培ってきた卓越した高度な技術を融合して、地球環境に優しい製品を顧客に提供し、安全・安心な社会の実現に貢献しています。その高い技術力と信頼性で防衛省・自衛隊の大規模災害等への対応などにも大きく寄与しています。



ろう付け作業の様子

防衛セミナー開催予定のお知らせ

○「防衛セミナー」

防衛省・自衛隊の各種施策の円滑かつ効果的な実施のためには、国民の皆様のご理解とご協力が必要です。東海防衛支局では、防衛政策や自衛隊の活動について、広くご理解を頂くための施策の一つとして、地域住民の皆様を対象とした防衛セミナーを開催しています。

令和元年度は、10月30日（水）、名古屋市内での開催を予定しています。

詳細が決まりましたら、東海防衛支局ホームページにてお知らせします。

東海防衛支局ホームページ 「イベント」
<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/ibento/ibento.html>
問い合わせ先/施設企画課 052-952-8223



昨年度岐阜県各務原市で開催した防衛セミナーの様子

東海防衛支局の政策広報活動

～四日市港で行われた艦艇広報にて～

東海防衛支局では、防衛省・自衛隊の政策などをご理解いただくための施策の一環として、政策広報活動を実施しています。令和元年6月2日、四日市港において、多用途支援艦「えんしゅう」及び潜水艦「うずしお」の一般公開が開催されました。当日は天候にも恵まれ、約1500人（主催者発表）の来場者がありました。



多用途支援艦「えんしゅう」を見学する大勢の来場者

当支局は、同岸壁内に特設ブースを設け、広報誌や防衛省のパンフレットの配布を行いました。また、お子様には、防衛省・自衛隊に興味を持っていただけるよう、艦艇等のオリジナル缶バッジを配布しました。



支局職員による広報活動

着任者紹介

自衛隊地方協力本部からのお知らせ



総務課長
平林 正彦
令和元年7月10日

自衛隊地方協力本部（地本）は、自衛隊を志す方やご協力・ご支援を頂ける皆様への窓口です。

愛知地方協力本部
（電話）052-331-6266
<https://www.mod.go.jp/pco/aichi/>

- 「自衛隊広報ルームへ、ご招待♪」
自衛隊の写真パネルや模型、実物大の装備品などを展示している楽しいスポットです。自衛隊グッズがゲットできるイベントDAYもありますので、ぜひ遊びに来て下さい！



岐阜地方協力本部
（電話）058-232-3127
<https://www.mod.go.jp/pco/gifu/>

- 防衛省自衛隊広報センター「自衛館」
自衛隊のパネルや「親子プラモデル教室」で作成されたプラモデル、装備品の模型などを展示している楽しいスポットです。ぜひ遊びに来てください♪



三重地方協力本部
（電話）059-225-0531
<https://www.mod.go.jp/pco/mie/>

- 各種イベントや自衛隊に関する情報を紹介！
各種SNS（Twitter、Facebook、Instagram）も随時更新中！
詳しくは、ホームページでお待ちしています。

